

## ■ 青戸飛行場跡 (まのひ)

太平洋戦争末期、青戸から加治佐にかけて飛行場がありました。「まのひ」の由来は、当初の建設予定地が枕崎だったことによります。知覧飛行場以上の規模でしたが、未完成のまま終戦を迎えました。周辺に残るトーチカ跡(2基)は米軍機や落下傘部隊が着陸した際に敵を攻撃するためのものでした。また、青戸飛行場には掩体壕と呼ばれる飛行機を隠し、爆撃による爆風から守るためのコの字型の上塁が約20基あったとされています。加治佐ではその上塁が残っており見ることができます。



## ■ 青戸の棒踊り

棒踊りは中国の棒術の流れをくんだ芸能で、ハヤシに合わせて速いテンポで踊りながら、全体が一体化した勇壮活発な踊りです。起源は薩摩藩主島津家が庶民の忠誠心を培うために踊らせたとか、豊臣秀吉の朝鮮出兵の戦勝踊り、棒で地面をついて地中の虫を殺して豊作を祈るなどの説があります。六尺棒・三尺棒・鎌・扇子などの道具を使います。



## ■ 鍛冶や製鉄が栄えた地

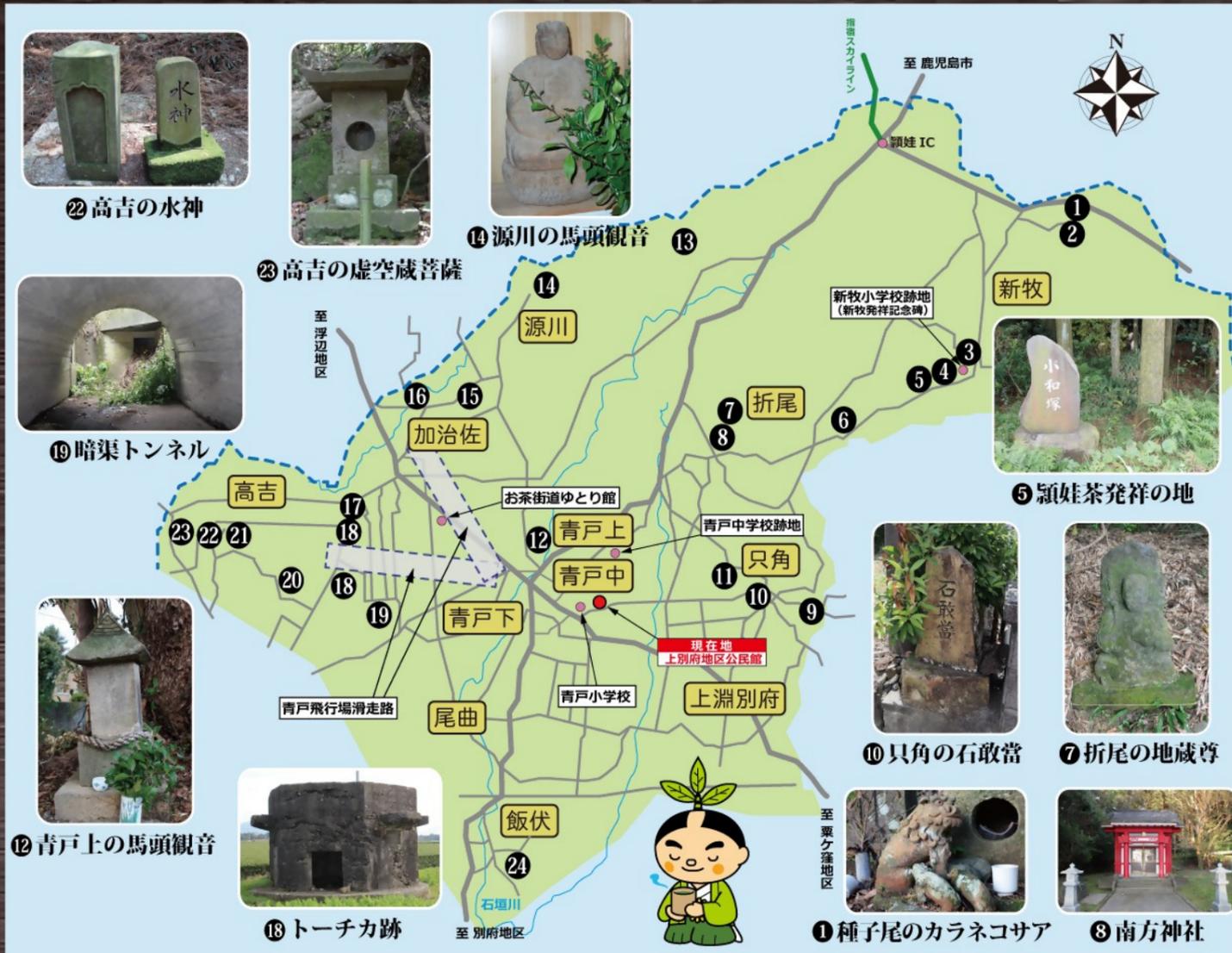
江戸時代、薩摩藩では製鉄や鍛冶技術が発達しました。新牧自治会の種子尾では江戸時代前半に出雲国(島根県)や安芸国(広島県)から製鉄技術者が移り住み、たたら製鉄が行われていました。今はそこに鉄の神がまつられています。新牧も鍛冶職人が移り住んできた集落で、主に鉄釘が作られていました。鍛冶の際に出る鉄滓(カナクソ)は新牧小学校跡地に建つ集落発祥記念碑に埋め込まれています。また、鍛冶職人が鉄の商いの帰りに宮崎県都城から茶の種子を持ち帰り、植えたのが颯娃茶の始まりといわれています。



写真左: 種子尾の製鉄遺跡 右: 新牧発祥記念碑

# 上別府地区 地域の「お宝」マップ

たくさんの遺跡や戦跡が残る上別府地区。雄大な茶畑が広がる以前は飛行場でした。



青戸小校章

冬の名物! 大根やぐら



1945年の青戸飛行場滑走路



茶畑と開聞岳

- |                |              |
|----------------|--------------|
| ① 種子尾のカラネコサア   | ⑬ 山谷の地下壕跡    |
| ② 種子尾の製鉄遺跡・鉄の神 | ⑭ 源川の馬頭観音    |
| ③ 新牧の鍛冶遺跡      | ⑮ 掩体壕跡       |
| ④ 永田正源の墓       | ⑯ 迂回道路跡      |
| ⑤ 颯娃茶発祥の地      | ⑰ 青戸飛行場跡案内看板 |
| ⑥ 北手牧遺跡        | ⑱ トーチカ跡(2基)  |
| ⑦ 折尾の地蔵尊       | ⑲ 暗渠トンネル     |
| ⑧ 南方神社         | ⑳ 貯水槽跡・三角兵舎跡 |
| ⑨ 只角城跡         | ㉑ 高吉のため池     |
| ⑩ 只角の石敢當       | ㉒ 高吉の水神      |
| ⑪ ヤマンの墓        | ㉓ 高吉の虚空蔵菩薩   |
| ⑫ 青戸上の馬頭観音     | ㉔ 飯伏の水道記念碑   |